



1. せめて日曜祭日は休みたい
2. 緑の自然をより大切に
3. 安全な飲み水をより多く

1. 最近の不況ムードで、「日本人は働きすぎる。もっと労働時間を短縮すべきだ」という議論はやや下火になった感がするが、大勢としては労働時間の短縮の方向に向っているように思われる。多くの企業で週5日制がとられ、官公庁でも週5日制の検討がなされているように聞いている。しかし、建設業界にあっては、あまりこの問題が話題にならないように思われるがどうであろうか。実際に建設業の作業現場では、週5日制どころか日曜祭日も満足に休みのとれない場合が多いようだ。果たしてこのような現状でよいのであろうか。それだけでなく、多くの作業現場における1日の労働時間は実質8時間を越している場合が多い。土木工事の特殊性、労務契約条件の特殊性にも原因があると思われるが、休日をとらずに働くことを最大の美德とする風潮が、建設業界にとくに根強くあるように思われてならない。建設業界も他の産業界なみの労働条件の改善の努力が必要なのではないかと思われる。せめて、近づくゴールデンウィークだけでも休養を十分にとり、明日の建設に邁進してもらいたいものである。 [J]

2. 円切上げ問題等とならんで環境保全への関心が高まりつつあるおりに、経済審議会の環境研究委員会から環境問題に関する2つの報告が発表された。

この報告において、人類の生存基盤として緑の自然保護の重要性が強く指摘されているが、豊富な自然を保有する農村は、自然環境の観点からみて、今後、重要な役割をになってゆくものと考えられるので、その開発は慎重に行なわれることが必要である。農村の開発において、とくに問題が生じてくるのは高速道路等の建設に伴って工場・観光産業等の商工業資本の進出がはかられようとする場合である。都市に比べ所得・生活水準ともに低い状態にある農村にとって、工場ないし観光産業の進出は大きな魅力をもっているが、反面、自然破壊というマイナス面をあわせ持っていることを忘れてはならない。従来、このマイナス面が軽視され、無秩序に開発が進められている例が多いが、これらプラスとマイナスの両面のバランスを考慮した適切な開発をはかることが必要となってきている。このためには、農村の開発に先立ち、農業の生産性の向上と農村生活環境の改善を中核とした農村整備計画を策定し、この計画に基づき、秩序ある開発を進めてゆくことが強く望まれるが、いかがなものであろうか。 [S]

3. 昭和45年秋のカシンバック病騒ぎをきっかけとして、安全な飲み水として、多摩川下流玉川浄水場の取水が問題となり、東京都は玉川系水道水質調査会を設置し、調査会はこれについて審議し、3月8日都知事に対し「原水として利用するのは望ましくないが、暫定的な給水はやむを得ない」との答申を行なった。しかし、これを受けた都知事は、「飲み水が百パーセント安全と保証できない限り取水再開はしない」との方針を明らかにした。

この玉川浄水場は1日に都全体の約4%にあたる15万トンの取水を行ない、約30万人の都民に給水していたものであり、「生命と健康を守るため」このことは当然の措置と思われる。

一方、都市の水需要はますます急であり、新たな水源の確保は困難なものであろう。水資源の確保については多くの努力がなされているが、水資源の量の開発には限度があり、「水の質」が大きな問題となっている現在、土木の分野だけでなく、広く医学の分野、化学の分野等の人達と力をあわせてこれに取り組んでゆかなければならないと思う。急を要することと理解したい。 [C]